



静岡県教育委員会
教育広報紙

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

Eジャーナルしずおか

平成28年(2016年)
6月20日
月曜日
第173号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3168 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

学校と連携した 三島市「家庭教育アドバイザー」の活躍

三島市では、家庭教育アドバイザー(家庭教育支援員)を積極的に学校に派遣しており、保護者の子育てに関する悩みや不安の軽減に効果を上げています。

コーディネーター機能が大切です!

三島市では、3人のアドバイザーと市担当者1人とで、家庭教育支援チームを組織しています。

チームのコーディネーター役を担当者が務め、小・中学校との連絡・調整を担っています。各学校1回以上活用することを目指して、市内全ての小・中学校において、平成27年度は、家庭教育講座を14回、相談活動を12回実施しました。

学校の負担を軽減するため、実際に支援活動を行う際は、家庭教育学級で講座を開催したり、授業参観日に合わせて相談活動を行ったりしています。また、講座等の開催案内や、相談活動の看板等も支援チームが準備し、学校が受け入れやすくなるように様々な工夫をしています。

頼りになります!家庭教育アドバイザー!!

講座のアンケート結果では、約99%の保護者が「講座内容を話し合う形式が良い」と回答しています。担当者をはじめ市生涯学習課が強力にバックアップすることで、保護者に信頼感が生まれます。また、講座等を実施した学校にも好評で、本年度は支援活動をさらに拡大して実施する予定です。

県では、全ての保護者が安心して家庭教育が行えるよう、家庭教育支援員を養成しています。それぞれの地域に配置された家庭教育支援員が学校と連携することで、より一層活躍することを期待しています。



家庭教育講座の様子

【社会教育課】



岩手県と静岡県の高校生のエール交換

発生当時の街の様子、現在の街づくり活動、地元の方たちとの交流などについて、自ら体験も交え、息の合った質の高いプレゼンテーションを披露してくれました。発表後、本県高

【健康体育課】

現在の教育界において、介します。不登校は全国的にも大きな問題の一つとなつてい

子どもへの働きかけで 不登校を未然に防ぐ 「日ごろの声掛け」

◆心のサインを見逃さない

・生活ノート等による教師とのやりとり
・定期的な教育相談やアンケートの実施
・毎朝の健康観察
・子どもの心のサインをキャッチしたら、まず一声掛けましょう。「あなたのことを心配しているよ」というメッセージを届けましょう。

◆「未然防止」取組の必要性

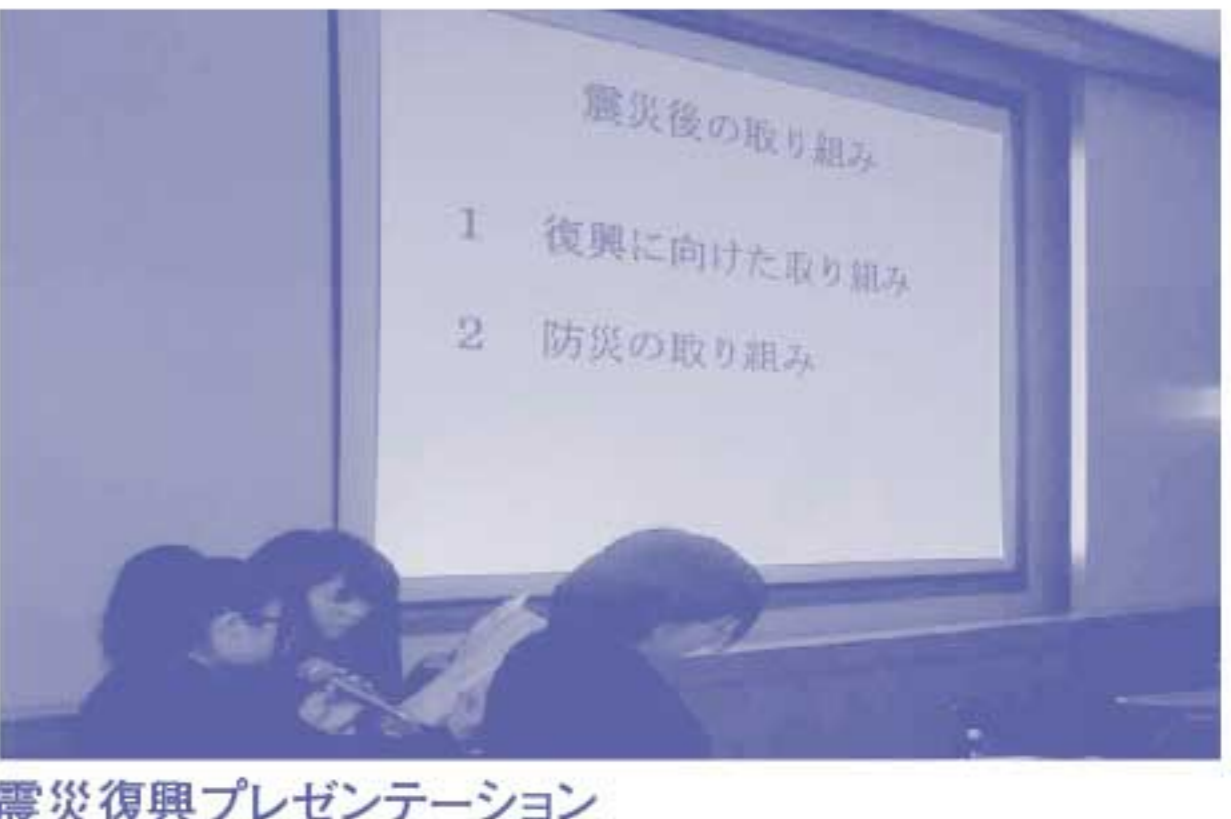
不登校への対応では、子どもへの働きかけが重要になってきます。その働きかけが、子どもにとって安心感や自己存在感を感ずることができるとい

問題点を直す(治す)ことで解決を図る「治療」のイメージが強いのかも

◆チーム支援のために重要となるコーディネーター

静岡県では東日本大震災から、今日に至るまで、大槌町・山田町を支援しています。県教育委員会

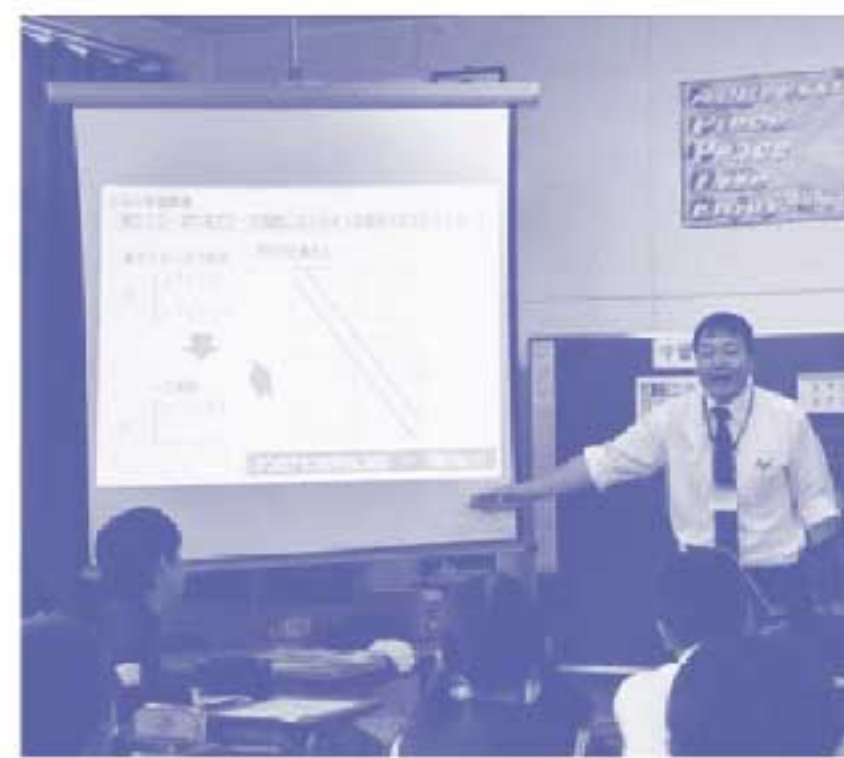
いわて・しずおか
交流事業



震災復興プレゼンテーション

多忙化解消を意識した 教育課程の編成・実施

吉田町教育委員会学校教育課 主席指導主事 竹下 知行



著者

TK4H

校内運営計画	
日	TK4H(部活動) 出勤簿仮ペ切り
1	・町教育相談関係者小中連携月例会10:30相談室
2	星休み12:50-13:15 清掃13:20-13:30 帰りの会13:40-14:00
3	部活動14:10-16:15 完全下校16:30

TK4Hの日課

一日の業務軽減

平成27年度、私が主幹教諭として勤務した吉田中学校では、平成28年度の教育課程編成においてTK4H(多忙化解消4時間運営)を年間数回実施することが決定しました。本年度はその試行期間として実践検証をしています。

この期間は、一学期の成績処理をはじめ、様々な業務が重なることから、夜遅くまで勤務する先生が多いのではないのでしょうか。

「この期間は、一学期の成績処理をはじめ、様々な業務が重なることから、夜遅くまで勤務する先生が多いのではないのでしょうか。」

また、静岡県内の平成28年度教育行政の基本方針でも「学校運営の改善に向けた取組の推進」がうたわれています。その一事業である「未来の学校『夢』プロジェクト事業」では、モデル校における教職員の多忙化解消についての研究を行い、その実践を基に未来の学校を創造していくことになっています。



教育課程編成全体会の様子

教職員が授業に専念できる環境づくり

そこで、TK4Hにより、特に多くの業務が重なる学級担任の負担軽減を目指しました。具体的には、6・7月の3回の金曜日を午前中4時間授業に、午後は勤務時間終了までを部活動指導の時間としました。これにより、学級担任は、教材研究や成績処理に専念できるとともに翌日の部活動の大会等にも備えることができるようになりました。

授業時数の確保

しかし、この計画を可能とするためには授業時数の確保が必要です。そのため、年間授業日数を206日とし、終業式当日は、午前4時間の授業、午後終業式等を行う工夫をしました。

日々のゆとり

未来の学校

「日々の多忙化を解消すること」の必要性を理解していただきました。昨年度末に吉田町教育委員会へ異動となったため、私自身はこのTK4Hの成果と課題を直接確認することはできませんが、今後、在籍している先生方が多忙化解消を意識して実践していただければうれしく思います。

吉田町から発信

吉田町立住吉小学校はこの事業のモデル校として県教育委員会から指定されました。今後、吉田町教育委員会が多忙化解消委員会を設置し、3年間、町内の他の小中学校も含めてこの事業を推進していきます。「校務の整理」「教職員の意識改革」を柱として実践し、その成果と課題を吉田町から発信していきたいと思えます。

多忙化解消のねらい

最後に、この多忙化解消のねらいは、教職員が授業に専念できる環境づくりであり、その成果は子どもや、教師の姿に表れなければなりません。子どもたちの学びに教職員が自信を持って指導や支援が行えるよう、全力を注いでいきたいと思えます。

主体的に取り組む 環境整備 離島の学校運営をサポート

熱海市立初島小学校 主事 布施 遼太



えび刺し網の行事に参加する筆者(左から2人目)

小中学校を兼務

この特色あふれる初島小中学校へ赴任して2年目となりました。兼務発令は初めてでしたが、小学校・中学校双方の視点から学校運営について考えることに面白さを感じています。本校は市の事務職員が未配置のため市費業務も担当しています。少ないため、一つの場所

小さな校舎には、備品や教材を保管する場所が少ないため、一つの場所に多くのものが保管されてきました。そのため、必要なものがすぐに見つけられなかったり、新しい備品が納品されても配置する場所がなかったりすることが課題となっていました。

幸い船の欠航による延期もなく、全て回収されました。校内はものを置くスペースが増えたため以前よりも利用しやすい環境になり、職員からも喜びの声が上がっています。



回収前日に職員全員で鉄くずの運びだし

熱海市立初島小学校は県内唯一の有人島である初島にあり、初島中学校が併設されています。小学生と中学生が同じ校舎で授業を受けており、特別活動や給食などで一緒に活動することも多く、お互いとても仲良く生活しています。平成9年に建てられた校舎は日本最大規模のログハウスで、校舎の中に展望台があるのが自慢です。

そこで私は、破損している備品や今後使用しないものを廃棄して、校内の整理をすることを提案しました。実際に校内を見て回ると廃棄できずに残っているものが多く見つかりました。また、職員から廃棄したいものについてのアンケートを実施し、必要性の有無を確認しました。

本年度の児童生徒は5人です。職員を合わせても17人と小規模の学校ですが、全員で力を合わせて教育活動に取り組んでいます。全校児童生徒と毎日顔を合わせ話ができるのは小規模校ならではのことで、今後、事務職員(スクールマネージャー)として、初島小中学校の一員としてより良い学校になるよう力になっていきたいと思えます。



木造建築の校舎

学校・家庭・地域が一体となっており、お互いが深く関わり合っていることも学校の特色の一つです。初島区民の多くは初島小中学校の卒業生であり、日頃から学校のことを大変気にかけてくださいます。給食の材料や購入したものは船で運ばれてく

鉄くず回収
廃棄することになった

おわりに
本年度の児童生徒は5人です。職員を合わせても17人と小規模の学校ですが、全員で力を合わせて教育活動に取り組んでいます。全校児童生徒と毎日顔を合わせ話ができるのは小規模校ならではのことで、今後、事務職員(スクールマネージャー)として、初島小中学校の一員としてより良い学校になるよう力になっていきたいと思えます。

受ければなしは ダメです! 健康診断の結果を 有効に活用しましょう

皆さんは、「健康診断」にどんなイメージをお持ちですか?受ける日が決まるとカレンダーに〇印をつけて何となく気にする方、毎年このことから何も気にしない方、去年指摘を受けたそのままになっていたことを思い出した方:受ける気持ちは様々かもしれませんが、車やマイホームに定期点検があるように、現在の身体の状態をチェックすることが、健康診断の役割です。

まずは受けることが大切ですが、受ければなしではよくありません。精密検査や再検査の必要があった方は、「どうせ毎年だから」「忙しいから」と放置せず、自分の身体のサインを受け止めて、身体の状態を把握しましょう。

がん、心臓病、脳卒中、脂質異常症、高血圧、糖尿病などは、食事や運動、喫煙、飲酒などの生活習慣が絡み合っ

総合教育センター
あすなろ Angle

「深い学び」のある 高等学校地理 歴史科の授業へ

◇アクティブ・ラーニング の視点

「深い学び」とは生徒の習得・活用・探究という学習プロセスの中で課題の発見・解決を念頭に置いた学びです。「深い学び」のためには「問い」が重要です。どのような「問い」が必要かを、総合教育センターが作成した平成27年度研究報告資料(リーフレット)「アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計診断」の「解決したい課題や問い」から取り上げて検討していきます。

◇授業に「思考・判断・表現」の場面を!

「深い学び」のためには、授業で生徒が思考したり判断したり、考えたことを表現したりする場面を設定した授業をする必要があります。そのためには、発問を意図的・計画的に行うことが大切です。用語だけを答えるような発問では、「深い学び」には至りません。生徒自身に「解決したい課題や問い」が生まれるような問いを教師が意識する必要があります。

◇解決したい課題や問い

生徒が主体的・対話的に取り組む「解決したい課題や問い」には、「なぜだろう?」「こんな場合はどうなるだろう?」という要素が

必要です。ここでは、地理Bの都市と村落に関する学習について考えます。

単元を貫く問いを「いま生活している都市が百年後まで大幅に人口を減らすことなく、持続していくためには、どのような取組が必要だろうか?」とします。問いは、自然環境や産業など様々な既習分野の知識を活用しながら、資源・エネルギー問題、人口問題、自然災害と防災など様々な分野に応用・発展が可能です。

さらに、考えるための材料を分野に応じて用意することで、問いに対する生徒の活動が焦点化でき、生徒が仲間と対話的に探究することを引き出します。

一方、単元の中の小さな問いでも、生徒が主体的・対話的に取り組む問いを設けることができます。東京大阪などの「大都市が河川の河口にあるのはなぜか?」という問いには、教科書や地図帳、資料集、補助教材などを活用しながら、仲間と対話する場面を設定することで、生徒が「どこにどのようなものがあるのか」という地理的な見方を培うことができます。

歴史は、事実立脚し論理的な整合性に留意しながら歴史的思考力を培うこと、地理は、多面的・多角的な視点からの地理的な見方や考え方を培うことが重要です。これら、科目の本質に迫る「問い」のある授業を構築しましょう。

【総合支援課高校班】

補助教材「取扱いガイドライン」を活用し、 教材選定における公正性・公平性の確保を!

補助教材の適正な取扱い

学校においては、教科書を補完する教材として、教材会社が作成した補助教材(単元テスト、ドリル、ワークなど)を使用しています。補助教材の購入に当たっては、学校が教材会社と契約し、その費用は保護者が負担しています。このため、使用する補助教材を決定するには適正かつ公正な手続きが求められます。

ガイドラインの有効活用

県教育委員会では、適正に補助教材が取り扱われるよう、平成28年3月に「補助教材取扱いガイドライン(改訂版)」を作成し、教職員に配布(県教育委員会義務教育課ホームページにも掲載)しました。ガイドラインには、営利企業等従事許可「運用基準」、教材会社等との接触の在り方、退職教職員による働きかけの禁止、教材の選定・評価方法、保護者への説明方法などを盛り込んでいます。

教材選定のプロセスとしては、まず学校ごとに教材の選択基準を設けます。教材の候補選定の段階では、教科部会等において、複数の教材会社の教材を比較・検討し、評価・選択資料を作成します。その上で、校長が最終的に購入する補助教材を決定します。

ガイドラインを参照し、教材選定における公正性・公平性を確保するとともに、効果的に補助教材を活用し、確かな学力の育成につなげていきましょう。【義務教育課】

夜空の星座(プラネタリウム)を見に行こう!

総合教育センター(あすなろ)には、プラネタリウムがあり、幼児から中高生まで楽しめるプログラム番組が5本あります。(1本40分程度)

あすなろで、ゆったりと星空を眺めてはいかがですか?

プラネタリウム番組一覧

- ①「マコちゃんの春」【春】(幼稚園児～小学校低学年)
- ②「シャボン玉飛んだ」【夏～秋】(幼稚園児～小学校低学年)
- ③「天体の動き」【夏】(小学校5・6年生以上)
- ④「星とその動き」【秋】(小学校中学年～小学校6年生)
- ⑤「地球と太陽系」【秋～冬】(中学生・高校生～一般)

■定員 50人 ■使用料(時間) 3,700円

他にも体育館や講堂、研修室等もあり、どなたでも施設をご利用できますので、お気軽にお問い合わせください。

開放施設名	定員(人)	使用料(円/時間)	利用時間
講堂	550	4,400	○月～土曜日9:00～21:00 (図書室、テニスコートは17:00まで) ○第2・4・5日曜日9:00～17:00
大研修室	150	2,200	
研修室1・2	各50	各800	
情報学習室	30	1,900	
体育館	30×25m	1,100	※第1・3日曜日、国民の祝日、12/28日～1/4日はご利用できません。
テニスコート	2面	1面400	
図書室		無料	

※利用される団体により、使用料を減免する規定もあります。

問 県総合教育センター総務企画課総務班
TEL0537(24)9703 FAX0537(24)9707

マリンスポーツ体験参加者募集

1泊2日の日程で、「ヨット」「ボードセーリング」「SUP(Stand Up Paddleboard)」の3つのマリンスポーツを存分に体験することができます。夜には、セーリングの技術やマリンスポーツを行う上での知識を学びます。雄大な自然の中にある浜名湖でマリンスポーツを体験してみませんか。これからマリンスポーツを行ってみたいと思っている方や興味がある方、お気軽にお問い合わせください。

- 開催日 8月13日(土)～14日(日) 1泊2日
- 募集人員 30人
- 対象 20歳以上 初心者歓迎!
- 活動 ヨット、ボードセーリング、SUP
- 申込期間 6月21日(火)～7月10日(日) ※申込多数の場合は抽選
- 協力 ヨットリーダーズクラブ(YLC) ボードセーリングリーダーズクラブ(BLC) SUPインストラクター

問 三ヶ日青年の家 TEL053(526)7156

夏休みは親子で図書館へ 「夏休み子ども 図書ウィーク」

8/5～11

県立中央図書館は、所蔵資料等を活用し、夏休み中の子どもたちの学習や読書を支援します。様々な子ども向け体験講座も計画しましたので、ぜひご参加ください。

①「ユニバーサルデザイン絵本手作り教室」
年齢や立場を超えて共に楽しむことができる絵本を身近な材料で作ってみよう。

【日時】 8月6日(土) 午後1時半～4時
【定員】 20人(要申込)
【対象】 どなたでも(小学生3年生以下は保護者同伴)
※参加費100円程度(保険料)

②「谷田山親子自然観察講座」
図書館周辺の植物や虫を観察して、図書館の本で調べてみよう。自然観察の絵本も読んでみましょう。

【日時】 8月7日(日) 午前9時半～12時
【定員】 20人(要申込)
【対象】 小学生、保護者(小学生5年生以上は児童だけでも参加できます)
※持ち物 虫取り網・虫かご・帽子・水筒

③「初めての英検Jr.講座」
英検Jr.講座ブロンズレベルの対策講座です。

「素敵な出会いがいっぱいあるな!」
Eジャーナルしずおかの編集担当となり、さまざまな人と接して感じていることです。

このEジャーナルしずおかを作り上げるために、原稿の執筆をお願いした原稿者、各所属の担当者や連絡を取り合っています。その作業の中で、

【日時】 8月9日(火) 午後2時～3時
【定員】 20人(要申込)
【対象】 小学生(3年生以下は保護者同伴)

④「ふじっぴーの親子グラフィック」
グラフィックやクイズに挑戦。パソコンの統計キッズページも使ってみよう。ふじっぴーもやってくる!

【日時】 8月10日(水) 午後2時～3時半
【定員】 30人(要申込)
【対象】 小学生(3年生以上は保護者同伴)

⑤「子ども図書館ツアー」
書庫等、普段は見ることのできない図書館の裏側を案内します。

【日時】 8月5日(金) 午後2時～3時
8月11日(木) 午後1時～2時
【定員】 各20人(要申込)
【対象】 小中学生(小学生3年生以下は保護者同伴)

⑥「龍勢花火展」フロアレクチャー
草薙龍勢保存会の方が龍勢花火の展示物について解説してくれます。

【日時】 8月10日(水) 午後3時半～4時半
【定員】 なし
【対象】 どなたでも(小学生3年生以下は保護者同伴)

問・申 県立中央図書館企画振興課
TEL054(262)1246

担当者の授業や事業に対する熱い思いや、仕事に対する姿勢などを知り、良い刺激を受けています。新たな発見もたくさんあり、楽しく作業をさせてもらっています。

第10回 ウィズガス ぜんこくおやこ

全国親子クッキングコンテスト

炎の調理で五感を研ぎ澄ます



昨年の静岡県大会の様子(10/18静岡市)

主催 静岡県大会 静岡県ガス協会(全国大会 ウィズガスCLUB) / 後援 総務省 文部科学省 静岡県 静岡県教育委員会 全国小学校家庭科教育研究会 (公社)静岡県栄養士会 (公財)しずおか健康長寿財団 ほか

「食」を通じて親子のコミュニケーション向上を!キッチンから家族の絆を。ぜひ、学校での課題としてご活用ください。応募された方にもれなく参加賞(オリジナルクリアファイル)をプレゼント

ご応募多数の学校には「学校賞」をご用意しております。

9/25(日)県内5会場で地域予選大会 静岡県内の参加親子大募集!

応募受付期間
2016年6月19日(日)～9月2日(金)

【お問い合わせ】静岡県大会運営事務局
静岡ガス内 TEL.054-284-7980
(応募用紙のご希望・お問い合わせはお気軽に)
<http://www.gas.or.jp/shokuiku/>

応募用紙記入例



学校での活動の推進などにより、食育への関心は高まり、昨年は静岡県内で9,901組(4年連続全国最多・全国では50,037組)の応募をいただきました。クラスや学年全体で夏休みの課題として応募していただく学校も増えています。

(小学校の先生たちの声から)コンテストに参加することで、子供達の食に対する意識も変わり、朝食を食べる生徒が増えたり、給食の残量が減る効果がありました。